

平成24年度教育研究活動報告書

氏名	市川 彰	所属	美術学科
学位	修士	職位	講師
専門分野	日本美術史		
Ⅰ 教育活動			
本年度担当科目			
学部	日本美術史、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館学各論、博物館実習		
大学院	日本美術史特講		
Ⅱ 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
(1) 若冲画に示されたもの-「動植綵絵」以前の三件の鶴を主題とする着色表現をめぐって-、『研究紀要』第20号、京都大学文学部美学美術史学研究室、1999			
(2) 若冲画に示されたもの 2 -《初期作品》「雪梅雄鶏図」をめぐって-、京都文化博物館紀要『朱雀』第19集、2007			
(3) 若冲の《最初期の着色画》、「雪中雄鶏図」をめぐって、「美術に関する調査研究の助成」研究報告、鹿島美術財団、2002			
(4) 『都林泉名勝図会』に記された「名宝」、京都文化博物館紀要『朱雀』第20集、2008			

<p>(5) 狩野永敬筆「十二ヶ月歌意図屏風」について～平成21年度修繕報告を兼ねて～、京都文化博物館紀要『朱雀』第23集、2011</p>	
<p>本年度を含む過去の研究業績</p>	
<p>(1) 読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界～浮世絵から源氏意匠まで～、京都文化博物館平成20年度特別展（自主企画）、2008</p>	
<p>(2) 『都林泉名勝図会』に記された「名宝」、京都文化博物館紀要『朱雀』第20集、2008</p>	
<p>(3) 『都名所図会』に記された名宝、京都文化博物館紀要『朱雀』第21集、2009</p>	
<p>(4) 『拾遺都名所図会』に記された名宝、京都文化博物館紀要『朱雀』第22集、2010</p>	
<p>(5) 狩野永敬筆「十二ヶ月歌意図屏風」について～平成21年度修繕報告を兼ねて～、京都文化博物館紀要『朱雀』第23集、2011</p>	
<p>現在の研究テーマ（3つまで）</p>	
<p>(1) 18世紀京都画壇の研究</p>	
<p>(2) 19世紀の「画人伝」の研究</p>	
<p>(3) 博物館学の諸問題—実践の立場から</p>	
<p>研究テーマの進捗状況</p>	<p>(1) に関しては、様式論の立場から改めて作品研究を行い、その成果の一部を日本美術史特講等で紹介した。(2) については資料収集と併行して、読解に着手した。(3) に関しては、これまでの経験を学芸員資格取得関連科目において文字化しつつ、伝達すべき諸情報の整理作業を行った。</p>